

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北海道室蘭市			代表者名	青山 剛
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	ICT推進課	連絡先電話番号	0143-25-2712
担当者役職	主任	担当者氏名	澤田 将	連絡先E-mail	
住所	051-8511 北海道室蘭市1-2				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	RPA等を通じたDX推進支援事業		
概要	RPAの活用・DX・オープンデータ・セキュリティ（三層分離）・業務効率化に関する情報共有と、他自治体の先行事例を通じた助言をいただきたい				
支援を求める分野	オープンデータ EBPM 人材（DX推進のための機運の醸成）自治体セキュリティ RPA導入				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻		
	令和6年5月29日	支援・助言	13時00分	15時00分	
				活動時間（分）	120

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	本多 康幸
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	RPAを導入している道内自治体間の意見交換・学習の機会を、さらに発展させる取り組みと位置づけて、本年度第1回目を開催した。今回は、10の市から参加があった。RPAの推進や庁内DXの推進などの担い手となる「デジタル人材育成」について議論を行った。各自治体の状況の意見交換を行い、課題の共有を行った。本多氏から、それに対する、手立て（解決方法）や事例の紹介を行っていただき、その点についても議論を行った。一貫して議論のコーディネートをアドバイザーである本多氏が行ってくれ、建設的な議論ができた。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	25人
	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	2	0
		23	その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	RPAや自治体DXの推進を行うためにデジタル人材の活用が必要だが ・庁内でデジタル人材の定義が曖昧である（職員？外部人材？） ・人事部門との育成研修などの調整が難しい ・内部ではなく、市民向けの取り組みを推進できるデジタル人材とは？
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	内部、市民向けの活動で活躍できるデジタル人材の活用にむけた ・デジタル人材の定義 ・デジタル人材育成の方針などを明らかにすること。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 自治体DXで定められているデジタル人材の定義について 北海道庁内のデジタル人材の育成に関する紹介(道庁職員から)。北海道庁では、デジタル人材の定義を明確に定めており(レベル1~4)、それに応じた研修カリキュラムを組んでいること 	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> デジタル人材の定義が明らかになった。デジタル人材=デジタルツールを利用できる職員ではなく、行政の問題や課題を見つけ、それに対する解決策を現場に提案できる、さらにはハブ的な役割を担い、現場と業者をつなぐ人材が行政の中では必要ということ デジタル人材の育成の輪が広がることで、RPAやノーコードツールなどの横展開に拍車がかかるとのこと 以上のことについて、参加者全員で議論し、内部職員だけでは解決できなかったことが解決できた。 <p>→研修カリキュラムの組み方と庁内職員への周知の仕方 →給与などのインセンティブが働かないためデジタル人材を増やしていくことが大変。なので、意識の高い職員同士で会話を重ね、“仕事が楽しい”という気持ちをもってもらうことを体験してもらうことが重要など</p>	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	④予算以外で、今後取組む事項がある
	<ul style="list-style-type: none"> 講演内で紹介いただいた事例 北海道庁でのデジタル人材育成プログラム 	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 今回得た知見を庁内にどのように浸透させて、展開していくかの方針までは時間の制限議論することができなかった。今後予定している支援の中で議論したいと考える 	
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>意見交換に先立ちアドバイザー作成の状況調査アンケートを行った。各自治体担当者の関心の高さが伺え、情報交換に大いに役立った。</p>	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	デジタル人材の育成に着手し、RPAや自治体DXを推進できる職員を育成したい	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	庁内のデジタル人材が、縦割りではなくプロジェクト単位で各課の業務に関与し、多くの市民がオンライン申請により手続きが完了できる状態など、地域全体の情報リテラシーの向上を目指したい。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

